

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2572300073		
法人名	特定非営利活動法人 NPOワイワイあぼしクラブ		
事業所名	グループホームわいわい		
所在地	滋賀県湖南市石部東七丁目5番25号		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-shiga.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2572300073&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成22年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「街かどでふつうの暮らしを」を理念に、決まった日課はなく、お年寄りには毎日ゆったりと過ごしていただいています。
開設当初から入居されているお年よりもおられます。
歳を重ねるにつれ、以前できていたことがしづらくなってきた方もおられますが、しづらい部分はスタッフがお手伝いさせていただき、一緒に見たり・感じたり・笑ったり・といった時間を共有しながら、のんびり・ゆっくりとした毎日を過ごしていただけるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

土地の段差を利用した2階建てのゆったりとした1ユニットのグループホームであり、1階からも、2階からも出入りが出来、安全面も含め便利に出来ている。医療連携体制加算事業所として看護師との連携が良く、協力医とは24時間相談できる体制を取り日常の健康管理、緊急時や終末期ケアにも対応できている。食事は委託業者をお願いしてきたが毎水曜日・日曜日の昼食と夕食は職員と一部利用者で手料理を作り、より美味しく、季節感も出し楽しさを増加させている。水分の摂取量の管理は食事時や、おやつ時のカップの残量を常にチェックし1日の摂取量を管理できるようにし、健康飲料やゼリーの補給も行っている。車椅子利用者が多いのでトイレの改造をし利便性を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「街かどのふつうの家でふつうの暮らし」と地域に根ざした理念を持ち、その理念はリビングに掲示し、共有している。入居者のケアをするにあたり、理念が基本となる事を全体会議等で具体的に話し合う機会を持っている。	「街かどのふつうの家でふつうの暮らし」と「地域密着サービス」の理念をリビングに掲示し、共有している。特に新人教育時や研修時など各自のノートに記録し、月に1度は理事から理念についての講話も受けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、常会に出席し事業所の様子を伝えている。職員は地域の清掃活動や草刈りに参加している。 地域のボランティアセンターとの行き来が無くなってきているので、また試みたい。	隣接した2つの自治会の定例会に出席し、職員は草刈や清掃活動に参加し地域との連携を深めている。理事長は長年地域福祉に貢献し信頼が厚く、依頼を受け福祉支援や認知症についての講演を引き受けている。	ボランティアセンターとの交流を再開し、積極的に地域のボランティアの受け入れなどにも取り組み、地域交流に努力していただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ活かしきれていない。 今後、自治会の常会等で発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は、会議とグループホーム運動会の日程を合わせたことにより、日々の事業所内のくらしだけでなく、活動的な場面も見ていただくことができた。	運営推進会議は2ヶ月に1度、自治会長、民生委員、包括支援センター職員、家族代表、理事長、管理者、職員で実施している。ノロウイルス対策や関連グループ運動会への参加を決めたり、評価結果の検討もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内で解決できないことや分からないことに関しては、市の担当窓口にご相談をし、連携を取っている。 また、湖南省介護保険事業者協議会の研修会にも積極的に参加している。	湖南地区「ほほえみネット」に加入し、市の担当窓口との関係を密にし月に1度事業所の状況報告をして相談に乗ってもらう体制が出来ている。「湖南省事業者協議会」の研修会に積極的に参加、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にて学んだ職員が全体会議等の場で他の職員へ報告することにより周知を促しているが、全職員には至っていない。 玄関の施錠は、保安上、夜間時間帯(22～6時)のみしているが、それ以外の時間帯は開錠しており、身体拘束をしないケアを行っている。	身体拘束に関する「禁止対象になる具体的な行為」については新人教育時や内部・外部研修で職員が学んだことを他の職員にも周知徹底している。玄関の鍵、各居室の鍵は施錠しない。ただ保安上、夜間の時間帯(22～6時)は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待はないと認識している。 高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会は少ないのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会を持っている。 現在、制度を利用したい入居者のご家族があり、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には事前に自宅に伺うことで、入居者やご家族との関係を築いている。 契約に関しては、質問を受け、事務担当者とも確認しながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、市より介護相談員が来所し、事業所内の様子や入居者とのやり取りを持ち帰ってもらっている。 ご家族の面談時には各担当職員が中心となり要望等を聞き出すようにしている。	意見箱を設置している。苦情の受付担当者、市の担当窓口を重要事項説明書に記している。運営推進会議には家族の代表が参加して意見を反映している。家族との面談時には意見を聞きだすよう努力している。	家族に対して職員の退職や配置換えの情報は「わいわい通信」で知らせているが、一歩踏み込んで家族が対応し易いように交代して担当する職員の写真やプロフィールも載せて欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、運営会議を設けており、提案し、協議している。 日ごろ、管理者と職員は意見を聞ける関係にある。	運営推進会議や毎月開かれる運営会議に理事長も参加するのでそこで意見交換し反映している。提案例としてトイレの改修や高介護度利用者の増加に伴う入浴時人員増の提案が実現出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、理事長を含む理事との面談があり、各職員の一年の振り返りや思いについて述べる機会を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	アドバイザーの意見も取り入れ、一人ひとりの力量を把握した上で研修を組み込んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護出前講座等で、同地域の事業所と合同で勉強したり、施設の見学会があり参加している。 市内のグループホームが集まり運動会を開催する等の交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を希望された段階で、見学に来ていただいたり、ご自宅に伺いご本人とゆっくり話す時間を設けている。入居後は全職員がご本人の情報を入居時ケアプラン等で共有することで積極的に関係を築こうと心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同様に、ご家族とも自宅に伺った際にゆっくりと話す機会を設けている。入居後は担当職員を付けることで、どんなことでも話していただける関係を保っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーとも意見を交わした上で、ご本人・ご家族との話し合いを重ねることで、入居時ケアプランを作成し対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側ではなく、“いっしょに”を念頭に日々生活を送っている。一緒に時間を共有することで関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会にこられたり、一緒に外出される時間を大切に、その際にお互い話をするすることで、同じ支えていく関係であることを分かち合うようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に馴染みのある入居者に対しては、継続している関係もある。	利用者の思い出の場所を、本人や家族から聞き、通院の帰り道や買物に行った帰り道に、元職場であった小学校や入居前の家に寄り添って馴染みが続くよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに複数のテーブルや椅子、ソファを配置して入居者同士が関わりやすい環境を作っている。 また、コミュニケーションを取るのが難しい入居者に対しては、職員が間に入り支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した例は見られない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの担当職員とケアマネジャーが中心となり、アセスメントを行い、ご本人の思いや希望を聞き、ケアプランに反映させている。	職員が本人の思いをよく聞き、風呂好きな人は時間も自由に、花好きな人は花壇作りを歯の治療が必要な人は歯医者さんの往診等利用者の思いを最大限支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、これまでの担当ケアマネジャー等に話を聞き、これまでの生活の様子把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	“暮らしのようす”に心身の状態やご本人が話されたことをそのまま記入することで、その人らしさの分かる現状を情報として共有している。連絡帳も活用し細かな対応にも繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のモニタリング、3ヶ月に1回のカンファレンスにより、状態の変化を知り、評価している。 状態に急な変化がみられた時には、緊急カンファレンスも行っている。	担当職員が月に1度モニタリングを実施、3ヶ月に1度管理者と協議し介護計画を見直している。家族とも相談し確認を得ている。状況が変化した時はその都度介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に介護計画ファイルを作成しており、情報が共有できている。 気づきに関しては、「あんばいいいんかい」やカンファレンスで話し合い、ケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科の訪問診療を利用し始めたことにより、口腔機能の向上も支援しつつある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店や図書館等を利用し日々の暮らしを豊かなものにしようと心がけている。老人会の催し物にも参加することができ、楽しまれていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は入居者全員が協力医(小川診療所)を受診している。また、義歯や口腔内の状態が悪くなっている入居者もみられるため、歯科の訪問診療も始めた。	家族・本人の了解のもとで、かかりつけ医院からの紹介状を得て、協力医院が適切な医療を24時間体制で支援している。近隣に開業した歯科医院に働きかけ、訪問診療も実現した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3日勤務の看護師がおり、健康チェック・薬の管理・受診への付き添い等を行っている。介護職員はどんな些細なことでも相談している。電話での対応は24時間行える状態にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医との連携を取っており、往診にて治療が出来る場合は可能な限りホーム内で行っている。入院の判断は家族も含め、協力医と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制加算事業所として、終末期ケアに対応している。入居時には明文化した終末期医療方針を家族に説明し、同意確認印をもらっている。終末期においては、こまめにカンファレンスを行い、取り組むようにしている。	医療連携体制加算事業所として、終末期ケアに対応している。介護サービス重要事項説明書に記してあり、入居時から家族・本人と将来に向けて話し合い同意確認印を得ている。管理者と職員は心より終末期ケア対応ができるよう日頃から話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議等で看護師から方法を教わっているが、実践力が身につけているかは定かではない。消防署で実施されている救急救命の講習にも随時参加をすすめていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行うようにしている。地域の常会で避難訓練への参加の呼びかけを行ったり、ホーム内の入居者の様子を知らせることで協力体制を築いている。	年2回消防署の指導を受け災害避難訓練を実施している。消防署への緊急非常連絡電話を設置し万全を期している。災害時の対応マニュアルは職員がいつでも見られるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人権」や「接遇」についての研修にて学び活かすようにしている。 異性の職員のケアに羞恥心を持たれる入居者に対しては、同性の職員でケアにあたる様に配慮している。	利用者の人格を尊重しプライドを傷つけないよう、日頃の言葉使いに気をつけ、特に「幼児扱い」をしないことに注意している。個人情報資料は放置しないよう鍵つき書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をすることでご本人の思いに寄り添うようにしている。 あまり意思表示されない入居者に対しては、「はい」「いいえ」で答えていただけような分かりやすい言葉掛けを心がけてい		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に合わせた過ごし方が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選び、化粧、エステ等、その人らしい身だしなみやおしゃれを支援している。 普段は化粧をしておられなくても、外出時にされる方もおられ喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを週6日(昼・夕食)利用している。 盛り付けは一緒に行っていた。 10月より利用回数を減らし、準備から入居者と一緒にする時間を増やしている。	配食サービスの利用だけでなく、毎水曜日・日曜日の昼食と夕食は職員や1部利用者が一緒に手作り料理をしている。職員も同じ食卓で利用者の介助をしながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量に関しては、極端に少なくなったり、その状態が続く場合は医師と相談し、エンシュアにて栄養を確保している入居者もおられる。 水分に関しては、アクエリアスのゼリーや寒天を試すことで十分な確保ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、昼食後、夕食後にて口腔ケアを行っている。 歯科の訪問診療を始めたことで口腔内のチェックも順次してもらうよう考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの様子の記録で個人の排泄パターンを把握しトイレにて排泄してもらっている。トイレの訴えのある時は随時案内している。	個人の排泄記録から職員は利用者の排泄パターンを把握しており、時間、タイミングを見て自分で行くよう促している。夜も必要に応じトイレへ付き添って行ける体制を作っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて、食前に乳製品を採ったり、水分を採ったり、腹部マッサージをしたりと取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日のタイミングや体調によって、ゆっくり入浴してもらえるような支援をしているが、希望を一人ひとり伺っているわけではなく、職員の都合で決めてしまっている日もある。	基本的には週2回の入浴であるが、本人の希望で毎日、時間帯も希望に沿うよう対応している。家族からの要望もあり頻度が少ない利用者に関しては、気持ちを和らげながら入浴を誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室以外にも和室にソファがあり、休息できる。 夜間の睡眠時間の不足時や、体調が良くない時は適宜、居室にて休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての情報は、個人のケースファイルにあり、いつでも確かめることができる。効果や副作用、また用法に変化のある時は看護師が中心になり、連絡帳にて全職員に周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中活動支援の職員を10時～12時に配置し、外出や散歩、畑作り、お菓子作り、また今まで続けてこられた刺し子等の趣味の時間をより楽しめる支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ等、希望があれば外出しているが、少ないのが現状であり、職員側からお誘いして外出する形が多い。外食に関しては、ご本人の希望を聞き、計画している。 また、年に1回は旅行を計画している。	買い物、ドライブ等平均して週2回は外出している。又年1回は一泊旅行を計画実施している。1度に全員は無理なので2～3回に分けて実施するよう工夫し努力している。稀であるが利用者が職員の結婚式に出席したこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持しておられる方は少ないが、買い物に行った時等は、ご自分の手でお金を払ってもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話でのやり取りはされているが、ご本人自らがされていることはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングより季節の花を見ることができる。ひな祭りには雛人形、七夕には笹飾りといった季節を感じられる物を取り入れている。 トイレに関しては、車椅子での使用が多くなってきたため、改装を行った。	1階のリビングは床暖房、バリアフリーであり、トイレも改修され快適である。随所に利用者の手作り作品が飾られ、日当たりのよいリビングの窓辺には吊るし柿などを干し、季節感を感じられるようにして居心地よい工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング中央には大きめのテーブルがあり、気の合った者同士で過ごされている。他にも複数のテーブル、椅子、ソファがあり、独りで過ごすこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇、趣味の物を持ち込んでいただき、住みやすい空間を作っている。	各居室は十分な広さがあり使い慣れた家具や、仏壇等を持ち込み、それぞれ自分の好みに合った部屋で住みやすい空間になっている。家族が宿泊することも出来る。部屋は整理整頓され、清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」にしては、自分でパッド交換のできる入居者に対しては、分かりやすい場所に交換用パッドとゴミ箱を置くことで、自立を支援している。		

事業所名：グループホームわいわい

作成日：平成22年12月28日

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	・職員の退職や配置換えの情報提供がご家族に十分できているとはいえ、先の運営推進会議においても名前と写真を載せたものがあれば分かりやすいとの意見を頂いた。	・ご家族の皆さまがホームに来やすい・話しやすい親しみのある環境、入居者の皆さまが暮らしやすい環境を作っていきたい。	・顔写真と名前・簡単なプロフィールを載せたものを玄関入り口に掲示する。 ・また、ご家族の方へ毎月お送りしているお便り「わいわい通信」でもご家族にお知らせし、職員の異動についても同様にお知らせする。	6ヶ月
2	2	・地域のボランティアセンターとの行き来がなくなってきたので、試みたい。 ・避難訓練等の事業所の取り組みに地域住民の皆さまの参加協力を要請できていない。	・ボランティアセンターを活用していきたい。 ・地域の常会にて、事業所の様子を地域住民の皆さまに発信していくことでつながりを深めていきたい。	・目的を持ってボランティアセンターを来訪するだけでなく、入居者の皆さまと散歩をするなかで立ち寄れる場所として、ボランティアセンターを活用していく。 ・避難訓練では、地域の方々にも参加していただけるように協力を要請していく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。